



Close up
だて

— スポンジテニスで
全国優勝 —

ふじもとたくや
藤本拓哉さん
(南稀府町)



スポンジテニスのラケットとボール



プレー中の藤本さん(左) (室蘭民報社提供)

子どもから高齢者まで誰もが気軽に楽しめる「スポンジテニス」。
似たような名前で「二テポニ」という競技もありますが、今回は「スポンジテニス」の選手、藤本拓哉さんを紹介します。
スポンジテニスは、スポンジでできた柔らかいボールと持ち手の短いラケットを使って、バドミントンのコートでテニスに似たルールで競技します。柔らかく軽いボールのため、初心者でもラリーを続けられるのが特徴です。
この競技の全国大会「第15回全国スポンジボールテニス室蘭」の年齢制限のないフリーの部で優勝したのが藤本さんです。
「優勝できるとは思っていなかったのですが、本当に嬉しかった」という藤本さんがスポンジテニスを始めたのは22歳のとき。先に始

めていたお兄さんの誘いがきっかけとのことで、「とにかく上手になりたい」という一心で、最初の頃は毎日室蘭市まで通って練習していたそうですが、最近では週に2回程度。それでも、3年連続で全国大会に出場するほどの腕前です。
今大会、室蘭市在住の田邊千賀子さんとペアを組み出場。予選リーグから勢いに乗って決勝戦へ。「緊張はしなかった。2人で力を合わせて楽しくプレーすることができた」と、初の全国決勝という大舞台でも十分に力を発揮して優勝しました。
次の目標は「団体で全国優勝」。「まだあまり知られていないけど、年齢や性別に関係なく、誰でも楽しむことができる。ぜひ皆さんにも楽しんでほしい」とスポンジテニスの魅力を笑顔で話してくれました。

表紙のはなし (撮影: 伊達緑丘高校2年 文: 小野純也くん)



11月に入り、季節はもう冬だと思っていてもそんなことはリスには関係なく、元気に走りまわります。ごはんにかじりついている子など、開拓記念館周辺にはリスがいっぱい隠れています。12月になると雪が降り、見られる機会もなくなりますが、春にはまた顔を出してくれると思うので、ぜひ楽しみに過ごしましょう。

楽
画
記

■皆さん、従兄弟は何人いますか? (た)さんは3人、(や)さんは11人、私は16人、部長はなんと60人前後(正確に数えたことがないそう!?)…。こんな形でも少子化を確認できるのは驚きです。そのうちに「従兄弟って何?」という時代がくるかもしれません。ちなみに「はとこ」の人数は把握していません。(と)
■先月号の楽画記で私の「知らない『モノ』」のことを書きました。それ以来、職場の方や知り合いの方から「●●●は知ってる?」とお声をかけていただけます。ほとんど知らないモノばかりなので、「本当に勉強になるなあ〜」と思うのですが、いつの間にか私の周りはクイズ大会のような状況になっています。(笑) (た)
■「こたつ」。それは、寒い季節には欠かせないもの。こたつに入って本を読み、時々みかんに手を伸ばす。眠くなったらそのまま横になってのお昼寝も気持ちがいい…。そんな至福の時間を想像させてくれる魔法のアイテムです。でも、こたつで寝ると水分が奪われ体が乾いてしまうので、こたつ愛好家の皆さんはご注意ください!(や)